

弊社CSR業務に関して、新聞紙上において以下のように紹介されております。

2007年2月13日（火） 日本経済新聞 夕刊5面 「人間発見」

あなたの会社、誠実ですか インテグレックス社長 秋山 をねさん

企業の社会的責任（CSR）の重要性が叫ばれる一方で、次々と明るみになる企業の不祥事。そうした時代に「いい会社、誠実な会社」を応援する仕組みづくりに情熱を注ぐ女性経営者がいる。インテグレックス社長の秋山をねさん（46）だ。

「企業の社会的責任への取り組みや誠実さ」を物差しにした社会的責任投資（SRI）の存在を初めて知ったのは、約六年前のことです。それまで二十年近くの間、私は様々な経験を重ねていました。大学（慶応大）を出て、外資系証券会社に入社。そして結婚、退社、出産、離婚、大学院での修士取得、再就職と続けました。

SRIと出合ったのは、再就職先の証券会社で、米国勤務を終えて帰国した直後でした。「欧米では今、こういう物差しの金融商品が広がっているのか」。プロセスを問わずに数字のみで人間の価値が評価されがちなウォール街的な考え方に疑問を抱いていただけに、新たな出会いにまるで熱に浮かされたようになりました。

八十年を超える歴史を持つ米国の状況を調べているうちに、「私がやるべき仕事はこれだ。これからは企業も人間と同じように誠実さが大切な時代になる」と気持ちが固まったのです。

■「社会的責任」基準の投資 理念に共感し会社設立

思い立つや、その証券会社の同僚とオフィス十平方メートルほどの小さな会社を設立した。しかし、初めはいばらの道だった。

「SRIの投資商品をつくるには、公平で中立な調査と評価が大切。そのための組織を自分たちでつくろう」。SRIを知ってから数カ月後には、勤めていた会社の同僚と三人でSRIのための調査会社を立ち上げました。インテグレックスという社名は、私たちの思いを込め、英語で誠実さ、高潔さを意味するインテグリティから付けたのです。

リスクや失敗をほとんど考えずに、勢いで会社をつくっただけに荒波にもまれての船出でした。証券投資顧問業の登録に五百万円の供託金が必要なことも知らなかったのですから。資本金わずか一千万円の会社です。個人で出資してくださる方々の支援もあって増資をしましたが、まず身をもって学んだのが資金計画の大切さでした。

企業の不祥事が相次ぎ、社会的責任の重要性が理解されてきたのは追い風でした。でも、「言っていることはいいが、前例がない」という金融機関を動かし、現実のビジネスに結びつけるのは容易ではありませんでした。設立から二年目のクリスマスイブのこと。私たちが提案して証券会社が販売する予定だったSRIファンドの話が泡と消えたのです。

収入がほとんどゼロという日々が過ぎていく中で、つい弱気の虫も出てきました。そうしたとき、心の支えになったのが、高校時代に抱いた「ずっと働きたい。社会のために貢献したい」との思いでした。当時、まだ七歳だった娘の「絶対にやめちゃだめ。いい会社を応援したいんでしょ」という言葉も大きな励みとなったのです。

■いばらの道越え市場拡大 社会を変える力に

何とか自分たちの夢を実現しようと、秋山さんたちは、社会に対して責任を果たす企業への支援ビジネスに力を入れた。

社内も「理念を曲げるくらいならつぶれた方がまし」という空気に満ちていました。そこで、理念実現のため

には、まず誠実な企業を増やすこと、積極的に社会への責任を果たす企業が増えれば、後からSRIもついてくると発想を転換しました。

「急がば回れ」ではないですが、中立の立場で企業の社会的責任の取り組みをまず支援しようと、企業の内部通報の窓口業務や、社員や取引先を対象にしたモニタリング業務を始めたのです。そのようなことをしているうちに、二〇〇四年には初めてのファンドができ、同じ年に二つ目のファンドができました。

こうした挑戦が実を結びつつあるのか、日本のSRIの市場も今では、総額三千億円を超えるほどになりました。まだSRI先進国である米国の一%にも満たない規模です、しかし、一人一万円でも「誠実な会社を応援しよう」という投資に加わる人が増えていけば、社会を大きく変える力になる、との思いはますます強まっています。